

エストニアのダンサー Teet Kask 氏が「都民芸術フェスティバル」で踊ります！

是非ご来場ください！

エストニア出身、北欧各国の国立バレエ団でダンサーとして活躍後、振付家・演出家・プロデューサー・指導者としての活動も展開している Teet Kask 氏が初来日し「都民芸術フェスティバル現代舞踊公演」に出演します。

作品はダンテ『神曲』に取材した『神聖なる喜劇』（『神曲』原題）で、彼は主人公ダンテに地獄を案内する詩人ウィルギリウス役として登場する予定です。

作者の石黒節子は文化庁芸術祭賞を2回受賞という実績をもち、海外での公演も多数。洋の東西、古と未来とを今日的センスでブリッジし、知的なユーモアに富む作風で、国内外で高い評価を得ています。現在お茶の水女子大学客員教授。

エストニアと日本との出会い、それは Kask 氏と石黒、出演者達、そしてお客様との人間同士の出会いに他なりません。

是非このライブステージの出会いに皆様もご参加ください。



Teet Kask 氏 Photo:Mark Raidpere

平成18年度 都民芸術フェスティバル参加 現代舞踊公演
2007年3月2日（金）19時開演／3日（土）15時開演
石黒節子作品『神聖なる喜劇』

* ダブルキャスト。Teet Kask 氏は3日（土）出演予定

会場：東京芸術劇場 中ホール（池袋西口） 入場料：4,000円（全自由席）*詳しくは別紙チラシをご覧ください。

【お問合せ・チケットお申込】 Dance Hexagon 池田恵巳

Tel/Fax 03-3916-9155 E-mail DanceHexagon@aol.com

Teet Kask

ダンサー/振付家/演出家/プロデューサー

国立エストニアオペラバレエ劇場、王立スウェーデンバレエ団、国立ノルウェーバレエ団で活躍。1996年からは振付家としても活動を開始。99年、『Ballet International/Tanz Aktuell International』の評論総覧は、98/99シーズンの彼の創作活動に対して「傑出したダンサー」とのタイトルを与えた。同年、振付作品“Ursula X”はパリで開催された国際振付コンクールで最終審査に残る。

ロンドンシティ大学およびラバンセンターで芸術振付修士を修了。振付家としての Kask は古典の美学とモダンな表現との両方を、実験的構成の中で、自在に扱い融合させる。クラシックバレエとモダンダンスとを統合する個性的なアーティスト/振付家/指導者である。

石黒節子

舞踊家、振付家、研究者

1974年より毎年リサイタルを開催し、85年、87年文化庁芸術祭賞受賞。89年度文化庁特別派遣芸術家在外研修員、93年度文部省特別派遣在外研修員として欧米を歴訪。海外公演をイタリア（ミラノ）、インド（ボンベイ）、中国（北京・上海）、韓国（ソウル）、英国（ロンドン）、フランス（パリ）、ドイツ（ドレスデン・ベルリン）で開催。（文化庁国際芸術交流支援事業を含む）

現在、国際宇宙ステーションでの「飛天の舞」を準備中。お茶の水女子大学客員教授。

これまでに、江戸や日本近代文学、古典の源氏物語に取材しながらも西洋的感覚にも通じた「札」「羅生門」「GENJI」といった代表作は特に評価され、海外でも好評を得ている。